



新年のご挨拶

院長 太田 吉夫

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院の運営につきまして多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新病院での診療を開始して、もう少しで5年になります。高機能医療機器等を活用し高度先進医療を提供すると共に、屋上のヘリポートを活用した救急医療などにも力を注ぎ、当院の基本理念である「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民や地域医療機関から信頼される病院」を目指しています。また、2018年9月には、HCU病棟の運用を開始し、ICUとの連携によって重症患者の受け入れの一層の充実を図ってまいります。



ところで、各都道府県にエボラ出血熱などの一類感染症等の患者に対応する医療機関として、第一種感染症指定医療機関を置くことが求められています。香川県では、香川県立中央病院が第一種感染症指定医療機関に指定され、病棟の新築工事を行い2017年1月末に竣工いたしました。この病棟を使わなければならないような事態が発生しないことを祈っていますが、万が一の場合に対応が可能なように準備を進めています。2017年12月には香川県等と共に、また2018年11月には高松市、保健所、警察等の協力の元に、エボラ出血熱疑い患者の患者搬送・受け入れのシミュレーション訓練を行い、準備状況の確認を行いました。

当院の使命である高度急性期医療の提供という役割を十分に果たすために、急性期を脱し、症状が安定した患者については、地域の医療機関で継続治療が行えるよう、積極的に逆紹介を進めています。香川県においても、地域医療構想の策定が行われていますが、医療提供の機能分化、地域の医療機関との連携強化をはかり、地域で効率的な医療が提供できるよう努力してまいります。

今後とも当院との病診・病病連携にご協力頂き、これまで以上に皆様方との連携を深めていくことができますよう、ご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

中央
information

緩和ケア内科 部長 仁熊 敬枝

12/2(日) 2018年度緩和ケアPEACE研修会を開催しました



今年も恒例の研修会を開きました。すでに8回目の開催ですが、今年からは事前にe-learningを行なって来ていただき、会場で行うのは、ロールプレイとグループワークのみで、1日型の研修に変更になりました。さらに、今までは医師のみだった厚労省からの修了証がコメディカルの方にも出るようになり、多職種での研修に変わりました。1日型としては初めての開催だったので、運営側もやや緊張していましたが、参加者の皆様の協力もあり、無事終了することができました。

地域の開業医の先生に参加してもらいやすくするため、日曜日の開催としたところ、お二人の地域の先生の参加を得ました。このお二人を含めて院外の医師6名、当院研修医14名、看護師（院外6名、院内3名）、薬剤師（院内3名）、作業療法士（院外1名）、合計33名、当日の欠席なし、の参加状況でした。訪問看護をされている看護師さんの参加もあり、地域との連携を考えるグループワークでは、従来よりも深く話し合いが行われたようです。

今までと違って、研修会が1日で済むので、研修を受ける側も提供する側も、大きく消耗することなくできたと感じました。後の反省会での意見も取り入れて、次回からは、もっと楽しい研修会にできたらと思っています。

来年も日曜日に開催する予定ですので、ぜひ地域医療を担っている医師の皆さんにも多数ご参加いただければ幸いです。

末筆になりましたが、開催前から当日まで裏方として、種々のことを仕切っていただいた、緩和ケアセンターの三好さん、地域連携室の山本さんと金地さんに、感謝して、報告を終わります。

職場紹介 HCU病棟を開設しました

HCU師長 中村 美穂

平成30年9月に、HCU（ハイケアユニット）病棟を開設しました。長い間、香川県民の方をお待たせしていましたが、HCU室長：麻酔科診療科長（平崎医師）、HCU責任者：呼吸器外科診療科長（青江医師）、看護師長1名、副看護師長1名、看護師14名の体制でスタートすることができました。

HCUは、ICUに次いで重症患者を受け入れる病棟のため、手術後の患者や人工呼吸器装着の患者が入室しています。そのため、スタッフは常に、医師、薬剤師、栄養士、臨床工学士、理学療法士、各病棟看護師、医事課、地域医療連携課など、たくさんの職種のスタッフと連携をし、チーム医療実践の場になっています。そして、安全・安心なケアを提供できるようにと考えています。

病棟の自慢できるところは、当院の各科（ICU、CCU、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、消化器内科・外科、呼吸器内科・外科、腎臓内科、血液内科）の経験を積んだ看護師が集まり、それぞれが得た知識・看護を共有できることです。さらに、専門分野の認定や資格を持っている看護師がたくさんいます。

①保健師 ②助産師 ③呼吸療法認定士 ④臨床輸血認定看護師 ⑤ACLS/BLS/ICLS ⑥JNTEC ⑦下部尿路機能障害ケア資格者 ⑧ストマーサイトマーキング資格者 ⑨日本DMAT隊員 などです。

開設したばかりの病棟です。各専門分野の強みを活かしながら、看護師はペア体制で重症患者のケアを実践しています。患者・家族に寄り添い、常に、どのようなケアを提供できるかを考えながら、HCU病棟としてのあるべき姿を追い求めます。

どうぞよろしくお願いいたします。



中央NEWS

病院祭・院内コンサートを開催しました

業務課

9月15日（土）に第10回病院祭を開催し、例年よりも多くの方にご参加をいただきました。

1階ロビーには、メインステージを設け、コンサートや吹奏楽の演奏を行ったほか、お菓子のつかみどりやキッズコーナー（白衣体験・調剤体験）、高松北消防署朝日分署の協力による消防車見学、例年好評をいただいている健康診断コーナーなどにより来院者にお楽しみいただきました。公開講座は1階講堂にて、消化器内科の田中盛富医師による「お通じのトラブル～出るのか出ないのか～」、循環器内科の野坂和正医師による「動脈硬化とは」を行いました。また、今回初めて、ヘリポートや最新手術機器や放射線機器を巡っていただく院内ツアーを実施しました。予想を超える方々にお申込みいただき、皆様に興味を持っていただいていることを職員一同実感しました。院内ツアーにご参加いただけなかった方が発生するなど反省点もありましたので、それらを是正のうえ、来年度も同時期に開催したいと考えています。



病院祭(ツアー)



院内コンサート

また9月22日（土）には、全国大会等で素晴らしい成績を修められている坂出高校合唱部の皆様をお招きし、院内コンサートを開催しました。病室のテレビに中継するほか、多くの患者さんやご家族の方にもロビーにお越しいただき、美しい歌声を聴いていただきました。劇や踊りも交えたディズニーメドレーの演奏もあり、会場全体があたたかい、楽しい空気につつまれました。

当院では、今後もこのようなイベントを通して、地域の皆様との触れ合いを大切にするとともに、患者さんやご家族の方にも安らいでいただけるような催しを企画してまいります。

結節性硬化症診療連携チームを立ち上げました

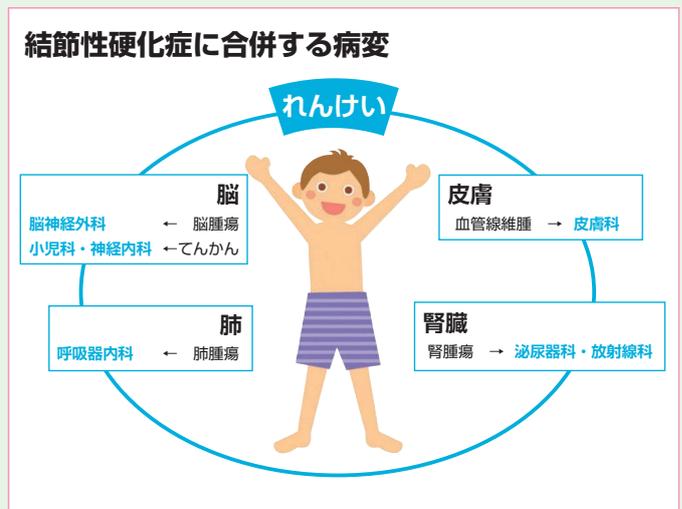
結節性硬化症は、全身の臓器に様々な病変を形成し、全年齢にわたり複数の診療科で治療を要する非常に特殊な疾患です。そこで、ひとりひとりの患者さんについて各診療科間での情報共有と連携が大切になってきますが、私たちは、患者さんが安心してそれぞれの診療科でスムーズに治療が受けられるように、診療連携チームを立ち上げました。

診療連携チームは、当院で、あるいは他院で治療中の患者さんに、適切な診療科への紹介の窓口として機能します。現在、当院で加療中の患者さんで結節性硬化症に関連する疾患で他の科を受診希望の方は担当の医師に、合併疾患の診察の希望をお伝えください。適切な診療科で、なるべく負担の少ない検査や治療ができるようにチームでサポートします。他院で加療中の患者さんで、結節性硬化症に関連する疾患で当院の診療科の受診をご希望の方は、当該疾患の担当診療科あてに紹介状を作成いただき、地域連携室を通して受診の申し込みをお願いします。もし、担当診療科が不明な場合は、代表の市川智継宛にお申込みください。適切な診療科を受診いただけるようにいたします。

このチームの機能により、香川あるいは四国にお住いの結節性硬化症患者さんの加療とよりよい日常生活に寄与できることを望んでいます。

◆チームメンバー（写真左から）

- | | |
|--------------|---------|
| 高橋 義秋（神経内科） | 成人のてんかん |
| 森下 佳子（皮膚科） | 皮膚病変 |
| 佐藤 潤（小児科） | 小児のてんかん |
| 宮脇 裕史（呼吸器内科） | 肺腫瘍 |
| 市川 智継（脳神経外科） | 脳腫瘍 |
| 佐々木克己（泌尿器科） | 腎腫瘍 |
| 田尻 展久（放射線科） | 腫瘍血管塞栓術 |



中央NEWS

医療セミナーを開きました

10/25 (木) 当院講堂において、「肺がんについて」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は川上公宏院長補佐、講演は呼吸器外科の青江 基主任部長でした。参加者は医師等59名で、そのうち院外からも20名の先生方にご出席いただきました。

11/29 (木) 当院講堂において、「香川県立中央病院におけるがんゲノム医療外来とがん遺伝相談外来について」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は高口浩一院長補佐、講演はがんゲノム医療センターの平沢 晃医師でした。参加者は医師等55名で、そのうち院外からも19名の先生方にご出席いただきました。

今後も、当院における医療を紹介するため、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。



リハビリのはなし

理学療法士のお仕事

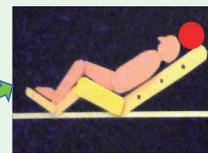
リハビリテーション部 理学療法士 玉木 久美子

当科では、早期離床を目的にリクライニング車椅子を使用する機会が増えています。そこで、当科で活躍している車椅子を紹介します。

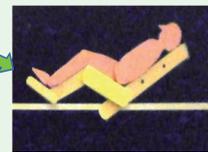
従来のリクライニング車椅子は、背シートを倒して仰向けになったり、起こして座位になったりを繰り返すと、車椅子と身体の支点が異なるため、背シートと身体に「ずれ」ができました。しかし、この車椅子は、背シートを倒すと同時に背シートが下にスライドし、背シートを起こすと同時に背シートが上にスライドするので、ヘッドレストと頭の位置を一定に保つことができます。

ですから、背シートを何回上げたり下げたりしても頭の位置がずれません。また、ずれやずれに伴う圧迫を軽減することで褥瘡を予防し、長時間の車椅子座位が可能になります。このリクライニング車椅子は、早期離床を図りたい方などで、臥位でないと移乗ができない方、臥位からの急激な姿勢変化が難しい方に最適です。

一つのレバーで背受け・腰受け・足受けを連動して動かせ、ずれを直す手間もなく、介助するスタッフも助かっています。



一般的な車椅子



リハビリテーション部で使用している車椅子

中央つらら

お通じにまつわるうんちく話 (その6)

消化器内科 部長 田中 盛富

19世紀末から20世紀初頭のパリにおいて、一人の放屁師（ほうひし）が活躍していました。放屁師とは「おなら」を自由に操ることができる人ですが、この人は「おなら」で曲を奏でるといふ洗練された芸を行うことができたそうです。

さて、わたしたちの胃や腸にはガスがたまっていますが、これは主に飲みこんだ空気と腸内細菌による発酵で作られたガスと言われています。消化管の場所によりガスの成分は異なり、胃の中のガスは、飲みこんだ空気成分である窒素、酸素がほとんどで、これらの一部は「げっぷ」で排出されます。一方、大腸では、酸素はほとんどなくなり、さらに腸内細菌の発酵等により、水素、二酸化炭素、メタンが作られ、これが「おなら」の主成分になります。ということで、「おなら」の成分は、飲みこんだ空気ではなく、腸内細菌による発酵で作られたガスが主体です。発酵は、大腸に届いた食べ物のカスが必要ですので、「おなら」の中身は主に私たちが食べた物と腸内細菌の関係で決まるようです。

また食べ物の種類によっても、ガスの量や臭いの強弱に影響します。ちなみにメタンを含め、体内のガスの大部分を占める気体は無臭です。「おなら」の臭いの原因は、肉などに含まれる硫黄などを元に、悪玉菌と言われるような腸内細菌から発酵（腐敗）により作られる微量の気体です。また、芋や豆類などはガス自体の量が増える可能性があります。

先ほどの放屁師は、実は直腸に自分で入れた空気ですら芸を行っていたようですが、高度な直腸の機能があったのでしょう。臭いはなかったのだと思います。

次回も腸内細菌に関するお通じのお話の予定です。



医師の人事

異動

転入

(10月1日付)

(11月1日付)



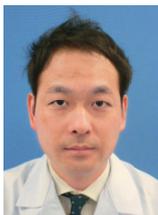
信岡 大輔

消化器・一般外科

岡山大学出身
(平成13年卒)

趣味/マラソン、
山登り

肝胆膵外科が専門です。超一流の医療を提供すべく、精進します。



西廣 真吾

脳神経外科

岡山大学出身
(平成21年卒)

趣味/サッカー

皆様のお役に立てるよう頑張りますので、宜しくお願い致します。



五反田 倫子

麻酔科

岡山大学出身
(平成28年卒)

趣味/DIY、
水族館めぐり

少しでも不安なく手術、麻酔をうけられるよう、精一杯頑張ります。よろしくお願い致します。

転出

(10月31日付)

● 豊嶋 敦彦
(脳神経外科)